

資料編

(1) 第4次士別市食育推進計画策定経過

1. 士別市食育推進市民会議における審議

開催時期	内 容
2023年3月23日	第3次計画数値目標評価について（第1回）
2023年11月21日	第4次計画の方向性について（第1回）
2023年12月20日	第4次計画案の確認（第2回）

2. 士別市庁内連絡会議における検討

開催時期	内 容
2023年3月	第3次計画評価の方向性について 第3次計画数値目標評価について（書面）
2023年10月	第4次計画の方向性について（第1回、書面）
2023年12月	第4次計画案の確認（第2回、書面）

3. パブリックコメントの結果

- ①募集期間 2024年2月15日（木）～2024年3月15日（金）
- ②提出方法 郵送・FAX・メール・持参
- ③結 果 意見なし

◇士別市食育推進市民会議委員

委嘱期間 令和5年4月1日～令和7年3月31日

区 分	氏 名	所属・職名等
委 員	煙山 訓 (◎)	士別東高等学校校長
	鳥毛 浩二 (○)	士別翔雲高等学校教頭
	谷 温恵	士別幼稚園園長
	藤川 結花里	士別南小学校栄養教諭
	加納 見咲	士別南中学校栄養教諭
	大久保 雅恵	士別市教頭会副会長
	中山 弘子	JA 北ひびき士別女性部
	佐伯 洋平	JA 北ひびき士別青年部
	塩ノ入 正子	士別消費者協会理事
	岩田 英子	士別市食生活改善協議会監事
	江崎 浩之	一般市民
	渡邊 由香里	一般市民
オブザーバー	植村 義徳	上川農業改良普及センター士別支所長
	笠井 寛和	名寄市立大学保健福祉学部栄養学科講師
	渡邊 健司	名寄保健所企画総務課企画総務課長

(◎議長 ○副議長)

◇士別市食育推進庁内連絡会議委員

(2023年4月1日現在)

区 分	所 属・職 名	氏 名
委 員	市民部くらし安全課長	青木 伸裕
	市民部朝日支所地域生活課長	岡田 詔彦
	経済部農業振興課長	藤田 昌也
	教育委員会生涯学習部学校教育課長	須藤 友章
	教育委員会生涯学習部学校給食センター所長	河口 光輝
	健康福祉部保育推進課長	東川 由美
事 務 局	健康福祉部保健福祉センター所長	佐藤 祐希
	健康福祉部保健福祉センター管理監	川原 淳子
	健康福祉部保健福祉センター食育推進係長	佐々木 瞬
	健康福祉部保健福祉センター食育推進係主任技師	高橋知加子
	健康福祉部保健福祉センター食育推進係主任技師	湊谷 実咲

(2) 食育（第3次食育推進計画）への取り組みの評価

《士別市食育推進庁内連絡会議による評価総括》

本市では、令和2年度から5年度までを計画期間とする「第3次士別市食育推進計画」を策定し、本市の食育を総合的に推進してきた。

高齢化が進行するなかで、健康寿命の延伸や生活習慣病の予防についての関心が一層高まりをみせるとともに、SDGs（持続可能な開発目標）をはじめとした環境問題への取り組みから、食品ロスや食品の安全性について注目を集めている。さらには、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う外出の自粛により家族での食を考える機会が増加したことなど、食をめぐる環境は大きく変化してきている。食に対する正しい知識を得て情報を適切に活用できる力を身につけるために、関係機関との連携・協力のもと進めてきた取り組みを継続していくとともに、ICTや社会のデジタル化の進展を踏まえ、デジタル技術を積極的に活用していくことが重要である。

今後も、より多くの市民に食育の重要性が理解され、食育を市民運動として定着させることが必要である。

《基本目標に対する評価》

方針1. 健康な体をはぐくむための食育推進

基本目標 1-①	規則正しい食習慣を身につける
基本目標 1-②	栄養バランスに配慮した食生活を実践する
各種事業を通じ、適正体重の維持や望ましい食習慣の確立、生活習慣病の予防・重症化予防、心身の機能の維持のための工夫について周知・普及を行った。	
(主な取り組み)	
・ 保育園児への食材カードを用いた食育、食育だよりの発行（保育推進課）	
・ 早寝早起き朝ごはん運動の推進、学校栄養教諭による食育授業、公民館講座（学校教育課、学校給食センター、社会教育課、中央公民館）	
・ 介護予防事業の実施（いきいき健康センター）	
・ 特定健診、若年者健診、特定保健指導の実施（市民課・保健福祉センター）	
・ スポーツ栄養学研修（合宿の里スポーツ推進課）	
・ マタニティスクールや離乳食教室の開催、乳幼児健診、食育出前講座・授業の開催、しっかり野菜 349g（サフォーク）レシピの提供（保健福祉センター）	

方針2. 豊かな心をはぐくむための食育推進

基本目標 2-①	食べ物の大切さを知り食に感謝の心を持つ
基本目標 2-②	食を楽しむ
基本目標 2-③	食を通して環境への理解を深める
<p>さまざまな体験を通じて、食の大切さを知り感謝の気持ちを持つとともに、生産から消費までの循環について学ぶことができるよう取り組みを進めた。</p> <p>(主な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 菜園作り、収穫体験、調理体験、季節の行事食の提供、子育て支援センターでの簡単クッキング、給食試食会、離乳食の試食と相談など（保育推進課） ・ 農業学習、菜園作り、調理実習、栄養教諭による食育授業、学校給食試食会、ふるさと給食や季節の行事食の提供など（学校教育課・学校給食センター） ・ スポーツ関係者を対象としたスポーツ栄養学講習会開催（スポーツ課） ・ 農畜産物加工体験（農業振興課） ・ 消費者教育授業（くらし安全課） ・ ごみ減量化懇談会（環境センター） ・ 高校生への食育出前講座開催、食生活改善推進員の養成・育成・支援、残さず食べよう！349（サフォーク）運動（保健福祉センター） 	

方針3. 元気なまちを作るための食育推進

基本目標 3-①	地元の食材を用いて豊かな食生活を実践する
基本目標 3-②	地域の農業や食産業に対する理解を深める
基本目標 3-③	関係機関の連携を深める
<p>「地産地消」の推進により地域農業・食産業への理解を深めるとともに、農業団体・食品関連事業者・各種団体による活動を推進するための取り組みを継続する。</p> <p>(主な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none">・給食における安全な食材（道内・国内産、添加物の少ない食品）の積極的な使用、ふるさと給食の実施（保育推進課・学校給食センター）・産業フェアの開催、見直そう！食とまちのフォーラム in しべつの開催（商工労働観光課）・産直マップの発行（農業振興課）・農産加工施設の運営（地域生活課）・食育推進計画の推進（保健福祉センター）	

(3) 令和4年食育に関するアンケート結果の概要

1. 目的

士別市では令和2年から5年を期間とする第3次食育推進計画を策定し、関係機関と連携し各種食育推進事業を実施している。

若く健康なうちから栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民の増加をめざし高校生への生活習慣病予防を目的とした出前授業や若い世代に不足しがちな野菜や芋類大豆製品の摂取量を増やすため、「食育の日に作ろう！しっかり野菜サフォーク（349g）レシピ」の普及に取り組んできた。

本調査は、第3次食育推進計画で掲げた目標値の達成度等を確認すること、第4次計画策定のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 概要

士別翔雲高校1年生と士別東高校1～3年生（計130人）と市内団体・企業に依頼し市内在住の20～70歳代（令和4年4月1日現在）の男女812人にアンケートを実施。高校生は高校の授業として、20～70歳代は事業所または関係機関を通して配布・回収。70歳代の一部は老人クラブ交流会で直接配布回収。

	成人意識調査	頻度調査（20～39歳再掲）
配布数	812人	254人
回収数	682人	196人
回収率	84.0%	77.2%
対象外（年齢）	2人	2人
回答不備・重複	2人	10人
有効回答数	678人	184人
回答率	83.5%	72.4%

	高校生意識調査	頻度調査（再掲）
配布数	130人	130人
回収数	130人	129人
回収率	100.0%	99.2%
回答不備	0人	1人
有効回答数	130人	129人
回答率	100.0%	99.2%

3. 調査期間

令和4年7月～8月（2か月間）

4. 調査項目

・高校生

【食習慣】 朝食摂取状況 1項目

【食物摂取頻度】 身長体重含む197項目 (FFQ NEXT 簡易版使用)

・20～39歳

【食育】 関心度、しっかり野菜349gレシピ認知・実践度等 11項目

【食習慣】 生活習慣病予防の実践度 1項目

【食品ロス】 認知度 1項目

【食物摂取頻度】 身長体重含む197項目 (※FFQ NEXT 簡易版使用)

・40～79歳

【食育】 関心度、しっかり野菜349gレシピ認知・実践度等 (11項目)

【食習慣】 生活習慣病予防の実践度 (1項目)

【食品ロス】 認知度 (1項目)

※FFQ NEXT 簡易版

FFQ は特定期間中における食品や飲料の摂取頻度 (および摂取量) を尋ねることで習慣的な食事摂取量を推定できる食事評価法の一つです。FFQ NEXT は次世代多目的コホート研究「JPHC-NEXT」(研究代表: 国立がん研究センター) で使用されている FFQ を用いた調査票を元としており、詳細版 (172 項目) と簡易版 (66 食品項目) の2種類があります。簡易版は調査対象者の負担軽減を目的に開発されたもので、専用の栄養価計算プログラムにより相対的な食事摂取量の推定について妥当性が確認されています。

5. 考察

- ・高校生男子は24.7%が肥満体型で、男子は20.8%、女子は17.3%が痩せている。
- ・高校生で朝食を「全く食べない」と回答した者は2.3% (3人)。
- ・20～39歳の男性は40.2%が肥満体型で、女性は26.1%が痩せている。
- ・成人では「健康な心身の保持(84.8%)」、「こどもの健やかな心身の発育(77.1%)」への関心が高く「生活習慣病の増加(59.7%)」を上回っている。
- ・生活習慣病予防のための食生活について、「いつも気をつけている」「気をつけて実践している」が52.8%、「あまり気をつけていない」「全く気をつけていない」が47.2%と、約半数が生活習慣病を予防した生活を実践できていない。特に20～50歳代の男性の実践率が低い(実践していない群に占める20～50歳代男性は50.9%)。
- ・20～39歳では欠食率が最も高く(男性36.7%、女性33.7%)、以降年代があがると欠食率は減り、摂取する食材も多くなる。朝食を欠食する理由は男女とも「食べないことが習慣化している」という回答が最も多い。
- ・40歳以降の朝食内容は、ごはん・パンなどの主食とたんぱく質や野菜のおかずなどで構成されており、70歳代ではたんぱく質や野菜のおかずなど品数がほかの年代よりも多い。

- ・20～39歳の若い年代の1日当たりの野菜摂取量の目標を満たしているのは緑黄色野菜で19.0%、淡色野菜（芋類、キノコ類含まず）で2.7%。緑黄色野菜で20g増やすと全体の61.9%が、淡色野菜で40g増やすと66.8%の若い世代が1日当たりの野菜目標量を満たすことができると推測される。
- ・平成30年から実施している「食育の日につくろう しっかり野菜349g（サフォーク）レシピ」について、78.3%が「初めて聞いた（知らなかった）」と回答している。

【課題と対策】

課題	具体的な対策
①20～39歳の男性の4割が肥満体型で、20～50歳代の働き盛りの男性の生活習慣病予防の実践率が低い。朝食欠食率は若い世代が高い傾向にある。	①働く世代の朝食欠食は栄養素の不足、肥満の増加を招くため、比較的関心が高い「心身の健康保持、子どもの健やかな心身の発育」という分野から、企業や団体と連携した朝食欠食を改善する取り組みができないか検討する。
②高校生男女約20%が痩せていて、栄養不足の可能性はある。	②健やかな成長と健康保持には食事が重要であるという意識を高め、実践できるよう、関係機関と連携し、幼いころからの食育の取り組みを継続する。
③高校生、20～39歳男女の野菜摂取量が不足している。野菜摂取量を増やすための取り組みである「しっかり野菜349g（サフォーク）」レシピの認知度、実践度が低い。	③肥満やがんの予防、摂りすぎた塩分の排泄など、生活習慣病予防や健康増進に寄与する野菜の摂取量を増加させるために、レシピのPRのほか、市内販売店と連携した取り組みを検討する。

6. 数値目標（指標）の評価

指 標	第3次計画		現状値 (%)	達成度	参 考	評 価		
	策定時 (%)	目 標 値 (%)						
①食育に関心を持っている市民の割合	98.0	98.0% 以上	99.6	達成	1	食育について関心を示す市民の割合が増加した。		
②食育を実践している市民の割合	53.2	70.0% 以上	52.8	未達成 横ばい	1	実践割合は横ばいとなった。		
③朝食を食べる市民の割合	小学	95.4	100	91.2	未達成 低下	2	年齢が上がるとともに朝食摂取率が減少する傾向が続いている。	
	中学	93.2	100	88.9	未達成 低下			2
	高校	86.9	100	86.9	未達成 横ばい			1
	20～39歳男性	73.2	90.0% 以上	63.3	未達成 悪化	1	男女とも朝食摂取率が減少している。	
	20～39歳女性	85.6	90.0% 以上	66.3	未達成 悪化	1		
④野菜類の成人1人1日あたりの摂取量 ※	20～39歳男女	236g	350g 以上	310g	未達成 改善	1	野菜類の摂取量は増加した。	
⑤食塩の成人1人1日あたりの摂取量 ※	20～39歳男女	9.5g	8.0g 以下	9.9g	未達成 悪化	1	食塩の摂取量は増加した。	
⑥肥満 (BMI25.0以上) の割合	20～39歳男性	30.7	27.0% 以下	40.2	未達成 悪化	1	成人男性の肥満の割合は増加した。	
	20～39歳女性	13.9	11.0% 以下	8.7	達成 改善	1	成人女性の肥満の割合は減少し、目標値を達成した。	
⑦やせ (BMI18.5未満) の割合	高校生女子	26.7	20.0% 以下	17.3	達成 改善	1	高校生女子のやせの割合は減少し、目標値を達成した。	
	20～39歳女性	14.8	10.0% 以下	26.1	未達成 悪化	1	成人女性のやせの割合は増加した。	
⑧食品ロスの認知度		55.6	80.0% 以上	84.2	達成 改善	1	食品ロスの認知度は大きく増加した。	

※ 20～39歳男女の現状値

参考 1 令和4年食育に関するアンケート
2 令和4年全国学力・学習状況調査